

# 日本精神保健看護学会

The Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing

ニューズレター 第25号  
平成11年4月12日

事務所：〒113-8622  
文京区本駒込5-16-9  
日本学会事務センター  
(理事長 中山洋子)  
TEL：03-5814-5810  
FAX：03-5814-5825

## 第9回 日本精神保健看護学会 総会・学術集会

メインテーマ：精神科長期在院患者の看護ケアへのチャレンジと資源開発

○日時：1999年5月29日(土)・30日(日)

○場所：聖路加看護大学(東京都中央区明石町10-1)

学会開催日が、変更になっています。ご注意ください！！

### プログラム

【第1日目：5月29日(土)】

11:30-12:50 受付

13:00 開会

13:00-15:30 基調講演「フィンランドにおける精神科慢性患者の看護ケア」

講師 Maritta Välimäki, RN, Ph.D

University of Turku, Department of Nursing, Finland

15:30-16:00 休憩

16:00-18:30 ワークショップ

[ テーマ ]

- 1) 精神看護学の教育展開
- 2) 精神科長期在院患者の看護ケアへのチャレンジと資源開発
- 3) 精神看護CNSの役割
- 4) リエゾン精神看護
- 5) グループ・セラピー入門
- 6) 再構成
- 7) リラクセーションの基礎
- 8) 精神科看護事例検討会①
- 9) 精神科看護事例検討会②

[ 担当者 ]

瀧川薫・岩瀬信夫  
藤野ヤヨイ・上野恭子  
岡谷恵子・荻野雅・深沢裕子  
若狭紅子・片平好重・中里良子  
武井麻子・小宮敬子  
池田明子・伊藤文  
五十嵐透子・中山洋子  
小林信  
平澤久一

18:45-20:00 懇親会 聖路加国際病院エスポワール

【第2日：5月30日(日)】

9:00-12:30 一般演題発表：一題発表15分、討議15分

(\*3/25現在)

第1群 社会復帰と地域ケア ①個人・家族への援助

- 1 精神障害者及びその家族が訪問看護を受けることの意味(第1報)  
井田めぐみ(北千住旭クリニック)、他
- 2 精神分裂病患者をもつ家族の病気に対する態度  
田上美千佳(東京都精神医学総合研究所)
- 3 精神障害者の恋愛・結婚・性の悩みと看護援助の特徴  
川添由紀(東京女子医科大学)、他
- 4 精神分裂病患者への心理教育的アプローチを用いた  
服薬自己管理プログラムに関する研究  
松輪雅美(東京武蔵野病院)
- 5 作業所利用中の地域の精神障害者の生きがい  
: the Purpose in Life日本語版を用いて  
岩崎弥生(千葉大学)、他

- 6 精神障害者の日常生活および社会参加への要望に関連する因子  
—デイケア参加者を対象に— 北島謙吾（三重県立看護大学）、他
- 7 精神障害者ホームヘルプサービスが対象者の日常生活能力に及ぼす効果  
萱間真美（東京都精神医学総合研究所）、他

第2群 社会復帰と地域ケア ②サポートシステム他

- 1 長期入院患者が地域に帰るまでを支え、わかった事  
萩原美奈（国立精神神経センター国府台病院）、他
- 2 T県S市における精神障害者生活支援センターの活動について  
—地域リハビリテーションの方向性を探る—  
菊地謙一郎（自治医大看護短大）
- 3 地域で生活する精神障害者のサポートシステム  
—場からのサポートに焦点をあてた予備的調査—  
千藤明美（兵庫県立看護大学）、他
- 4 地域で生活する精神障害者の家族からのソーシャルサポート  
住吉亜矢子（兵庫県立看護大学）、他
- 5 地域精神保健を推進するネットワークづくり  
—専門職者の意見— 川口優子（神戸大学）
- 6 地域在住高齢者の虐待リスク要因に関する研究  
鈴木英子（埼玉医科大学短期大学）、他

第3群 病院施設でのケアを中心に

- 1 保護室における身体の清潔ケアについての一考察  
—皮膚科疾患を伴う事例を通して—  
須藤章子（北里大学東病棟）、他
- 2 意思決定過程への援助技術に関する研究  
相澤和美（北里大学）
- 3 精神科における身体合併症を有する患者の看護アセスメントについての一考察  
上原淳子（大阪大学）、他
- 4 身体合併症病棟の立場からみた精神科長期入院患者の身体ケアの現状と今後の課題  
大竹真裕美（福島県立医科大学）、他
- 5 総合病院における精神科外来と救急室の連携を考える  
三原喜代香（京都市立病院）
- 6 「不安のある患者へのこころのケア指針」の開発とその評価  
梶本市子（高知女子大学）、他
- 7 管理コンサルタント、看護管理者、CNSとの共同作業の効果  
—病棟機能を変化させる過程において—  
宇佐美しおり（兵庫県立看護大学）、他

第4群 現任教育及び基礎教育に関するテーマ

- 1 精神科単科病院の現在教育を考える  
阿部和枝（済生会鴻巣病院）
- 2 精神障害者の看護における看護過程展開時の状況  
宮崎徳子（静岡県立大学短大部）、他
- 3 隔離室への入室体験を通して実習の意味を考える  
清水瑞恵（奈良県立医科大学附属病院）、他
- 4 看護教育におけるタッチングの試み  
五十嵐透子（金沢大学）
- 5 TEG（東大式エゴグラム）による女子大学生の自我状態分析  
新開淑子（北里大学）、他
- 6 桜ヶ丘記念病院における精神衛生法時代（前期）の看護者の役割  
—男子閉鎖病棟と開放病棟を中心として—  
白石壽美子（慶應義塾看護短期大学）

12:30-13:30 昼食

13:30-14:00 《第9回 日本精神保健看護学会・総会》

—休憩—

14:10-16:30 <シンポジウム>

テーマ：「精神科長期在院患者の看護ケアへのチャレンジと資源開発」

司会：安藤 幸子（神戸市看護大学）

羽山由美子（聖路加看護大学）

シンポジスト：工藤 正氏（東京都立松沢病院）

千葉信子氏（井之頭病院）

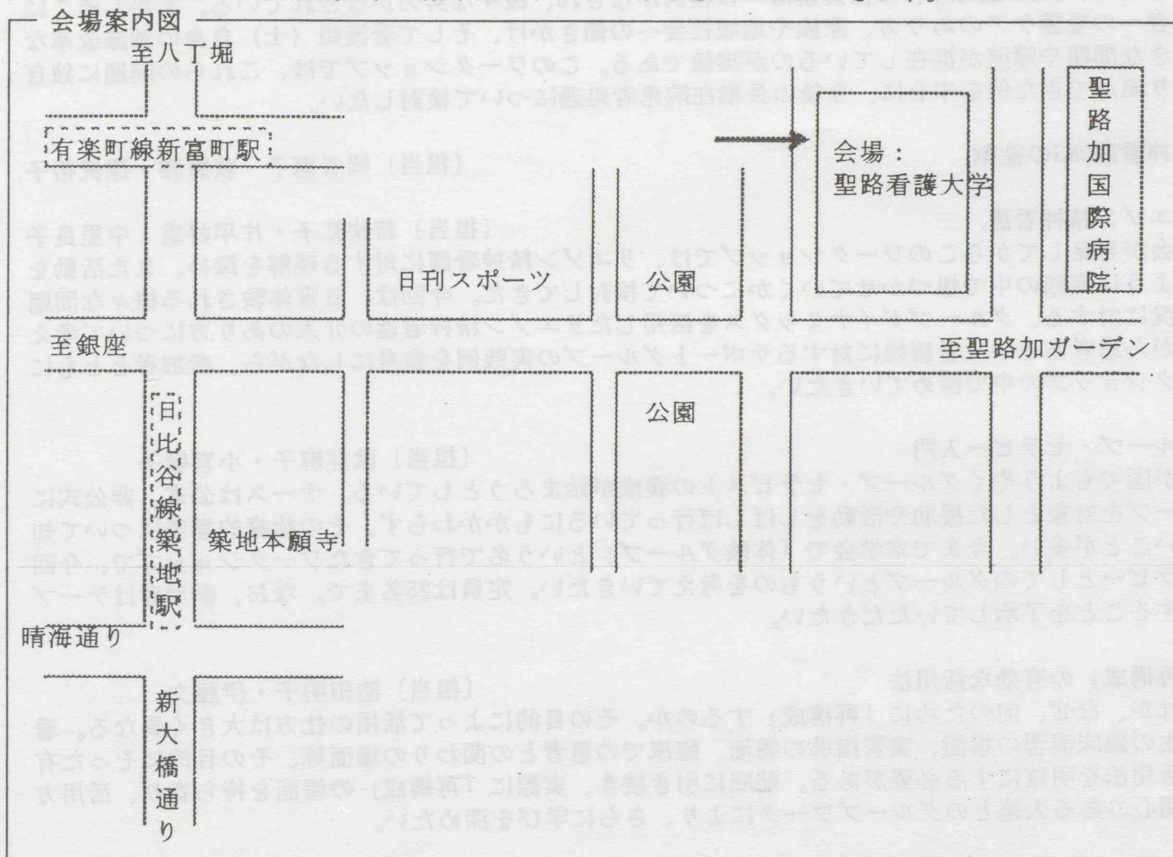
安藤一博氏（東京武蔵野病院）

小峯和茂氏（西ヶ原病院）

指定討論 Maritta Välimäki氏（University of Turku）

《注意事項》

- ・一般演題の発表に際して、OHP・スライドは使用できません。
- ・お弁当の用意はありませんので各自でご用意ください。（お食事処のマップは準備する予定です）
- ・大学構内は禁煙です。飲食は、2階学生ラウンジのみとさせていただきます。



<交通のご案内>

- 1) 東京駅より地下鉄丸の内線、銀座駅にて、日比谷線乗り換え、築地駅下車、徒歩5分。
- 2) 東京駅八重洲口より、タクシー、8キロ、15分、2,000円位。
- 3) 地下鉄有楽町線・新富町駅下車、徒歩8分。

平成11年度総会・学術集会・懇親会の申し込みについて

平成11年度総会、第9回学術集会の参加申し込みハガキと振り込み用紙が同封されています。総会・学術集会に参加される方は、同封の振り込み用紙にてご入金の上、申し込みハガキ（総会を欠席される方は、必ず委任状に署名捺印下さい）を学術集会事務局まで5月14日（金）までにお送り下さい。学術集会参加費は、会員5,000円、非会員7,000円、学生3,000円（但し、学生参加費は振り込みのみ、事前に教員を通じてまとめて申し込んでください）となっております。懇親会に参加される方は、懇親会費5,000円も同時にお振り込み下さい。

なお、振り込み用紙はお一人様1枚でご使用頂き、通信欄の該当箇所に必ず○印をお付け下さい。専用の振り込み用紙がない場合は、郵便局備え付けの用紙にて、「00130-3-29024日本精神保健看護学会・学術集会」宛て、会員・非会員、懇親会参加の有無を明記して、合計金額をお振り込み下さい。  
\*なお、当日は振り込み領収書の控えをご持参下さい。

## ワークショップ案内

### 1) 精神看護学の教育展開

〔担当〕 瀧川薫・岩瀬信夫

〔発表〕 遠藤 淑美・堀 源治

今回のワークショップでは、看護大学・看護短期大学、それから看護専門学校の教員の方々にそれぞれ立場から、カリキュラムの紹介を通して授業を展開するうえで大切にしている各自の考えや工夫などを披露していただきます。フロアとの意見交換も加えて、臨床からの期待に呼応し、学生の知的満足を喚起できるような教育の展開を図るための方法について、共に学びながら相互理解を深めていきたいと思っています。

### 2) 精神科長期在院患者の看護ケアへのチャレンジと資源開発

〔担当〕 藤野ヤヨイ・上野恭子

近年、精神障害者への諸問題を解決するために精神医療の変革が少しずつ進められている。そのひとつとして、長期在院患者の社会復帰への検討がなされ、様々な努力がなされている。しかしそこには患者への看護ケアのあり方、家族や地域社会への働きかけ、そして看護婦（士）自身の意識改革など大きな問題や障壁が混在しているのが実情である。このワークショップでは、これらの問題に独自に取り組んできた例を中心に、今後の長期在院患者処遇について検討したい。

### 3) 精神看護CNSの役割

〔担当〕 岡谷恵子・荻野雅・深沢裕子

### 4) リエゾン精神看護

〔担当〕 若狭紅子・片平好重・中里良子

学会が発足してからこのワークショップでは、リエゾン精神看護に対する理解を深め、また活動をどのように実践の中で根づかせていくかについて検討してきた。今回は、日常体験される様々な問題や状況に対する、グループダイナミクスを活用したリエゾン精神看護の介入のあり方について考える。がん患者あるいは看護婦に対するサポートグループの実践例を参考にしながら、参加者とともにワークショップの中で深めていきたい。

### 5) グループ・セラピー入門

〔担当〕 武井麻子・小宮敬子

わが国でもようやくグループ・セラピストの養成が始まろうとしている。ナースは公式、非公式にグループを対象とした援助や活動をしばしば行っているにもかかわらず、その治療的意味について知らないことが多い。今まで本学会で「体験グループ」という名で行ってきたワークショップで、今回はセラピーとしてのグループというものを考えていきたい。定員は25名まで。なお、参加者はテープ録音することを了承していただきたい。

### 6) 「再構成」の有効な活用法

〔担当〕 池田明子・伊藤文

だれが、なぜ、何のために「再構成」するのか。その目的によって活用の仕方は大きく異なる。看護学生の実習の場面、実習指導の場面、臨床での患者との関わり等の場面等、その目的にそった有効な活用法を明確にする必要がある。前回に引き続き、実際に「再構成」の場面を持ち寄り、活用方法に関心のある人達とのグループワークにより、さらに学びを深めたい。

### 7) リラクゼーションの基礎と呼吸法

〔担当〕 五十嵐透子・中山洋子

ストレス社会と呼ばれる現代の心理社会的問題の多くは、コントロール感覚の不足や欠如との関連が強い。人間にとって心身ともに健康な生活を営むにあたり、このコントロール感覚は不可欠なものである。リラクゼーションはコントロール感覚の維持や回復にあたり有効な方法のひとつといえる。ワークショップではリラクゼーションの基礎と呼吸法を体験しそれを語り合い、教育や臨床そして自分自身のヘルスプロモーションの一つとして活用していただける導入になればと思い企画した。体験学習のため、人数は20人とする。

### 8) 精神科看護事例検討会①,②

〔担当〕 小林信・平澤久一

見知らぬ者同士が会ったこともない患者さんに関してディスカッションするということは少し勇気の要ることかもしれません。しかし、事例検討はただ他の人の意見を聞いているだけでは身にはなりません。どんな些細なことでも間違っている、自分の意見を発言してみて、それについて違った見解や新たな見方、知識を交換し合っこそ、実践に役立つものとなるといえます。今年も2事例を用意します。日頃抱えている問題や関心によってどちらかを選択し、ふるってご参加ください。

(編集委員：田中美恵子、岩瀬信夫、中山洋子、若狭紅子、川添由紀、菅原とよ子、青本さとみ)